

<抄録>

スマートにエコライフを楽しもう

「誰でもできるエコドライブ」

地区環境保全委員会委員長 吉田 紘（松坂山桜RC）

京都議定書で日本は1990年を基準として、2008年4月から2012年3月までに温室効果ガス（二酸化炭素、メタン、一酸化二窒素）を6%削減する義務を負いました。しかし、2006年度の排出量は基準をすでに6.4%上回っています。目標達成は早くも厳しい状況になりました。

昨年、ノーベル平和賞は国連機構変動に関する政府間パネル（IPCC）と前米国副大統領のアル・ゴア氏が受賞すると発表されました。IPCCは「永年の温暖化懐疑論を科学的根拠で一蹴した、気候変動に関する議論は終わった。今後国際社会がどのように行動するのかへの新たな責任が生まれた。」と声明し、アル・ゴア氏は「受賞は大変に光栄だ。気候の危機は政治問題ではなく、全人類への道徳的、精神的な挑戦だ。」と述べた。

この100年の間に日本の年平均気温が1.0度上昇。平均海面水位は10～20cmも上昇。このまま温暖化が進めば2100年には最悪の場合気温6.4度、海面水位59cm上昇すると言われている。それが地球環境と私たちの生活に与える影響は計り知れない。日本の温室効果ガス排出量は2004年13億5700万トン、2005年は13億6000万トン。その約5分の1が家庭からの排出量である。1世帯当たりは年間5500kg。エアコン、冷蔵庫、テレビなど私達の豊かで快適な生活を支える多くの家庭電化製品や乗用自動車が大きなCO₂を出している。われわれロータリアン一人ひとりが知らない内に地球温暖化の加害者であり、被害者となっています。「あなたが出しているCO₂はあなたにしか減らせない。」今一人ひとりが強い意識を持って温暖化防止に積極的にどのように行動するのかを問われる時代になりました。

RI広報補助金を資金として4月10日、地区環境保全委員会と地区広報委員会の支援で岐阜市、桑名市、松坂市の各クラブが市民対象に「エコドライブキャンペーン」を実施いたしました。そこで、「エコ運転中」シールと「エコドライブ」ポスターを無料配布し、私達は広く市民にもエコ活動を進めて行きました。

地区環境保全委員会は地区内のクラブ環境保全活動を支援すべく、ここに温暖化防止推奨活動事例を提示致し、ロータリアン一人ひとりが今日からでも実施できるエコドライブを推奨致します。